

# 校長室だより

ふるさと大路を愛し 夢を求めて挑戦し続ける 大路っ子プライドの育成  
～ふるさと大路の輝く太陽になろう～

丹波市立大路小学校  
校長通信



令和5年5月号

## 8050（はちまる ごうまる）

4年ぶりに自然学校を4泊5日で実施しました。5月8日から新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行され、少しずつではありますが、以前のような教育活動を再開しております。ここ数年間で学んだことを活かしつつ、新たな教育活動を再構築していきたいと思っています。

さて、林真理子さんの『小説8050』を読まれた方も多いのではないでしょうか。「8050問題」については、2年前の市同教での研修内容でもあり、関心を持たれた方も多かったと思います。その年の兵庫県の人権啓発DVD「カンパニュラの夢」の中では、「8050問題」は誰にでも起こることと認識し、地域の人々が引きこもりなどの悩みを共有し偏見をなくすとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現を目指していこうとしています。



ここでいうところの「8050問題」とは、80代の高齢の親が、50代の無職や引きこもり状態の子どもと同居し、経済的な困窮や社会的孤立に至っているというような社会的な課題を言います。林真理子さんの『小説8050』は、この「8050問題」をテーマに、部屋から出られなくなった息子のために、家族は何ができるのか、長男の心をむしばんだ過去に、父親が立ち向かうストーリーです。親子の問題、夫婦の問題、同調意識と言われる日本人特有の問題、学校という組織の問題など、様々な係わりから「8050問題」を捉えています。また、いじめ問題も絡んでおり、読んでいる途中でとても辛くなるのですが、先が気になり一気に読んでしまいました。「8050問題」については、私自身まだまだ他人事としてとらえており、このような本を読むことによって、当事者としての課題意識につなげていきたいと思っています。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な行事が中止になったり、参加者を限定したりして実施してきました。地域におかれてましても、様々な集會行事が書面決議になったり中止になったりして、お互いに顔を合わせる事が少なくなりました。お葬式さえも家族葬でされることが多くなり、人との係わりが更に疎遠になってきたように思います。このコロナ禍により、人との係わりが疎遠になった分、その大切さがクローズアップされてきました。学校においては、高学年の子と低学年の子の係わりあう活動を意識的にたくさん持つようにしています。先日も、1年生のタブレット貸与式で6年生が1年生にタブレットの使い方などをレクチャーしました。「8050問題」など様々な課題について、協働して取り組むことができるよう、日常の係わりを大切にしたいです。

文責 畑中 啓太